

ご挨拶



東京海洋大学は地球規模での海洋に関わる諸課題を細部にわたり総合的に解決していく世界に名だたる専門性の高い大学です。そこでは、学生に対して質の高い教育・研究を日々継続して行っていく必要があります、そのためには、中・長期的なキャンパスの施設・環境整備をしっかりとしたプランに基づき実施していくことが急務となっております。

そこで現在、それらの諸問題を検討し、2021(令和3)年末のキャンパスマスタープラン(キャンパス総合整備計画)の策定に向けて、少しずつその骨格を探っています。今回はその最初の一步として「東京海洋大学キャンパスマスタープラン船出版」をまとめました。ここでは数十年というスパンの中で、本学が持続的に保ち続けるべき基本的な姿勢を示しています。

私は、キャンパスマスタープランのコンセプトを2019(令和元)年に、たたき台として取りまとめました。それは今回の船出版をつくるにあたっての出発点ともなりました。

大学の施設・環境づくりとは、その大学の力を最大限に発揮するために必要な道具づくりともいえます。そしてその大学の文化を未来に向かって創造的に積み上げていくことでもあります。そうした長期的視野をもった施設・環境整備を、全ステークホルダーで共感を持って進め、海洋の未来を拓いてまいりましょう。

2021(令和3)年3月吉日

東京海洋大学長
竹内俊郎

キャンパスマスタープランの骨子について

キャンパスマスタープランとは

キャンパスマスタープラン(CMP)とは、キャンパスの現状把握を基に、今後のキャンパスの整備・活用に関する戦略として、基本方針を策定するものである。教育・研究における基本方針及び経営戦略を、施設や環境面から支える。

未来に向けたメッセージとして守っていくべきキャンパスの骨格と、時代の要請に合わせて変化を可能にする箇所を定めることが重要になる。中期目標・計画期間に合わせて、または、キャンパスに大きな変化がある場合に、適宜改訂されていくものである。

キャンパスマスタープランの構成

1. キャンパスの基本方針
2. キャンパスの整備方針・活用方針
3. キャンパスの部門別計画

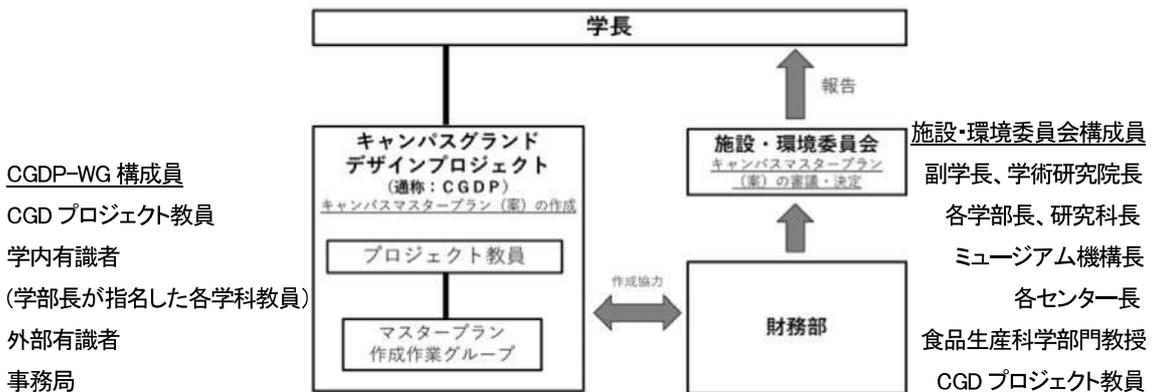
本学におけるキャンパスマスタープラン

本学では 2015 年 6 月(2018 年 3 月追補)に策定したキャンパスマスタープラン「国立大学法人東京海洋大学の教育研究環境の計画的整備に関する基本的考え方(マスタープラン)」があるが、これは施設・環境における現況分析と長期的視点での課題抽出までとなっている。

またその後見えてきた本学の課題としては、財政状況が厳しく老朽化の進む施設・環境の整備予算が長期的に見るとかなり足りず危機的状況にあり、財政確保をしながら、施設・環境の更新をしていく必要等がある。

これらの諸問題を解決し、本学のアカデミックプランである「Vision2027(Version2)」の実現を施設・環境面から支えるべく、2019 年 8 月にキャンパスグランドデザインプロジェクト(キャンパス全体構想プロジェクト)を立ち上げた。そして現在その活動として 2015 年版に続く本格的なキャンパスマスタープラン(キャンパス総合整備計画)の作成を開始している。

(参考図)体制図



(2021 年 3 月 9 日経営協議会・役員会にて追補内容承認。)

東京海洋大学キャンパスマスタープラン 2021(船出版)

の概要について。

1. 本学の施設・環境について

本学は、品川・越中島の2つの都心のキャンパス、吉田・大泉・館山・富浦・清水の5つのステーション(水圏科学フィールド教育研究センター)と戸田の艇庫を保有している。

本学の現在の特徴は低中層、低密度、風通しや採光も良く、人々の交流の場となっている。また、交通の便も良く本学の教育・研究に不可欠なスピーディーな交流が可能である。

2. 2つのキャンパスと5つのステーションを整備するにあたっての理念と計画、および運用方針

本学は、1.に記載のようにとっても良い資質が備わっている。これからのキャンパス整備では、そうした本学の資質を最大限に引き出していき、「海洋の総合的な知の集積と実践」に見える化し、その教育・研究を加速していく。

本学は、地球環境を創造する大学であり、それに相応しい営みのできる施設・環境をつくることを基本方針とする。すなわち東京の都心にありがちな高層高密度な都市環境とは別格の、本質的に豊かな施設・環境づくりを目指す。それはこれからの時代を切り拓くモデルとなり、大学の空間的・経済的基盤を創造していく。

検討にあたり、常に夢を語りそれを実現するように考える。すなわち既存の機能や空間において何が必要で何が新しく加えられるべきか、それらを総合的に検討し収斂し持続的維持管理が可能かを問い、真に次世代に必要なものを実現していく。老朽化等の各課題については、解決方法を模索し、新築・改築・大規模改修等の手法を組み合わせる。歴史的建造物も大切に活用していく。

施設・環境の個別計画では、CMP(以下文中一部においてキャンパスマスタープランをCMPと表記する。)を常に遵守する。CMPにより土地利用は長期的展望を持って計画される。数十年、百年にわたり常にその時々々の大学構成員が、キャンパス全域を創造的に利用し続けることが重要である。

3. 2つのキャンパスを検討していくときのプライオリティー

- ① 教育・研究を目一杯やりきるための施設・環境整備をする
- ② 生き残りをかけて施設・環境のブランドと文化をつくる
(地球環境を創造していく姿が見える化された施設・環境をつくる)
- ③ 学生のため、そして教員・研究者・職員のためにつくる。生き活きと過ごせる場
- ④ 学生同士・研究者同士・職員同士の連携の場
- ⑤ 教育・研究を前進させる、産学官民地域連携の場
- ⑥ 教育・研究内容が社会に届くところまでが教育・研究である
- ⑦ 財源確保(実現の手段、技)
 - ⑦-1 土地の一部や施設を貸して財源の一部を確保する
(公募によるPFI/PPPといった民間活力を導入した事業。民活事業)
 - ⑦-2 CMPを基盤にして戦略的に概算要求をしていく
 - ⑦-3 施設や部屋を貸して財源の一部を確保する

4. 品川キャンパスの空間の骨格について

この場所のポテンシャルを最大限に引き出す

教育・研究がより創造的になるような施設・環境づくりへの大きな考え方



空間の主軸

意識や視線の主軸

メインの軸線は

しっかりと海へ抜けている

(軸とは通路・道路や

開けた土地などにより

視線や人々の意識が抜けることを

意味する。)

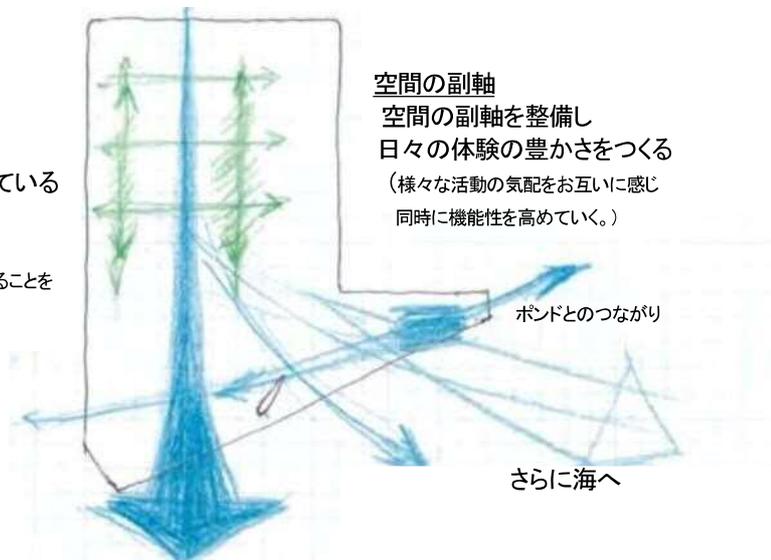
空間の副軸

空間の副軸を整備し

日々の体験の豊かさをつくる

(様々な活動の気配をお互いに感じ

同時に機能性を高めていく。)



場のまとまりと考え方(ゾーニング) (それぞれの場にどんな機能が配置されるかはこれから)

赤:

東京海洋大学の顔

茶色:

高速道路からの守りにもなる
民間の活力を導入していく場

青:

研究・教育の心臓部

研究・教育にふさわしい

静かな活気に満ちた

サンクチュアリ

緑の点々:

大学と民間事業者が

バッファーを共有し

共に育てていく水と緑の場

緑:

ひろびろした草地と

生態系の営みに満ちた

緑と水

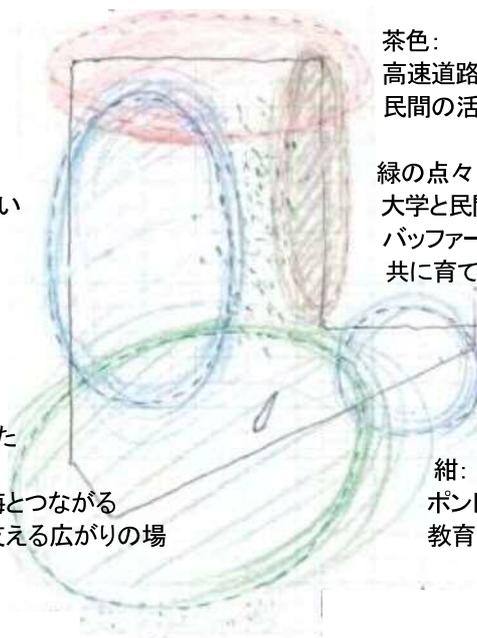
その向こうに広がる海とつながる

学生・研究者の心を支える広がり場

紺:

ポンドを中心とした

教育・研究の場



5. 今後のキャンパスマスタープランづくりとスケジュール

越中島キャンパスの空間の骨格や5つのステーションの空間の骨格についても検討を進める。(2020年度は公募事業等の計画があるため品川キャンパスを先行して検討した)。

2021年12月までに経営協議会・役員会において、CMPの策定を目指している。

(参考図)キャンパスマスタープラン策定ならびに運用スケジュール

年	2019 (令和元) 年					2020 (令和2) 年					2021 (令和3) 年													
年度	2019 (令和元) 年度					2020 (令和2) 年度					2021 (令和3) 年度													
月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
施設・環境委員会		●						●			●		●							●		●		●
		CGDP 立上げ報告											初期 まとめ 報告											
CGDP	CGDP プロジェクト期間																							
CGDP WG						第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第1回	第2回											
検討内容	調査・分析																							
	①ハード面の計画策定作業																							
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;">総合</div> <div style="width: 40%;">品川</div> <div style="width: 20%;">越中島</div> <div style="width: 20%;">5つのステーション</div> </div>																							
	②パイロットプロジェクト マスタープラン実現のための事業計画																							
③ファシリティマネジメント マスタープラン運用のための枠組み																								
学内意見聴取																					●			

(2021年3月9日経営協議会・役員会にて追補内容承認。)

以上、(キャンパスマスタープラン初期のまとめ): 2021年3月9日経営協議会・役員会にて承認